

研究分野のキーワード：ジェンダー，セクシュアリティ，階級，植民地支配，帝国主義

## 研究紹介

あなたは自己紹介でどんなことを言いますか？それが留学先の国や地域でなら、自分に関するどんな情報をまず伝えたいと思うのでしょうか？私が初めてイギリスの学校に留学したとき、20人くらいの大学院生が集まる場で交わされる自己紹介の様子に面食らったことをあなたにそっとお教えしましょう。

ある「イギリス人女性」の自己紹介。「私は白人でスコットランド人です。まちがってもイングリッシュではありません。私自身はヘテロ・セクシュアルですが、病院で長くゲイカップルの性認知に関するカウンセラーを担当していました」。もう一人は元モデルだったという「黒人女性」です。「私はカリブ海に連行されたアフリカンの子孫で、連合王国に移住した母と、ケルト系ウェールズ人の父の間に生まれました。セクシュアリティはレズビアンです」。もう一人は若い「白人女性」です。「私はロンドン在住の労働者階級出身のヘテロ・セクシャルです。祖父はかつてイギリス帝国下のインド植民地で働いていたそうです。きょうだいのなかで私だけが大学院に進学したので、かれらのためにもいろんなことを吸収したいです」。

どうですか？彼女たちの自己紹介をすんなり理解できたでしょうか？こうも詳しく自分というものを分析して把握したことなど、それまでの私にはなかったことでした。それで、見よう見まね（聞きまね？）で「私は東アジアをかつて植民地支配した日本という国から来ました。ジェンダーは女性で、おそらく自己認識としてはヘテロ・セクシャルだと思います。日本では階級をあまり意識せず生きてきたので、自分が労働者階級なのか中流階級なのかは分かりません。でも上流でないことは確かなようです」と言いました。下手くそな英語だったでしょうが、最後のフレーズでは場の笑いをとることに成功！ちょっとうれしかったのを覚えています。

つまり、ことほどさようにヒトのバックグラウンドは単純ではないのですね。ヒトには、彼女や彼がいやがおうにも背負う歴史や文化があります。歴史や文化と無関係にヒトは生きていきません。歴史に関してはあなたもすでに知識がおありだと思います。私が研究しているのは、その歴史が作ってきた文化の中身や変化の様子です。「イギリス人」と一括りに呼ぶその中身が、実は、過去の植民地支配がもたらした歴史のほか、「階級」や「セクシュアリティ」といった「区分」を（肯定するにせよ否定するにせよ）明らかにしないではいられないヒトにとっては、上記のように複雑と思えるようなものになるのです。

「複雑さこそ大事にしていこうよ」。そういう気持ちに駆られるのは、実は「支配した側」より「支配される側」に立たされてきたヒトに多いのでは？とカンの良いあなたはきっともうお気づきでしょう。もっとこんなことを知りたいな、って？では、近いうちにぜひ、愛教大でお会いしましょう。